

第31回 KOZOOM サロン自由テーマ 「能 江野島」から江の島へ

2023-1-17

野口幹夫

正月気分の1月5日能「江野島」を娘と見に行った。大船にある鎌倉芸術館小ホールでの公演だった。

私はこの「鎌倉能舞台」の会員である。このグループのゆわれが気に入っている。観世とか宝生といった能の家元とは関係ない能好きの青年中森晶三が古都鎌倉に能舞台がないことに一念発起して運動をおこし、ついに大仏通りの一角に鎌倉能舞台を打ち立てた。今はその息子の中森貫太と孫が継いでやっている。伝統



の家元ではないので能狂言の普及のためには思い切ったことをやる。ありそうでなかった鎌倉宮の敷地で薪能をやった。これが大人気となり各地の寺社境内の薪能ブームに火をつけた。謡いの言葉はわかりづらいので、観客は謡本をもって見る人が多いが、ここは字幕のサービスがある。素人でもわかる。また2時間近くかかる演目を1時間くらいに圧縮して、エッセンスがわかれば楽しめるやり方を恥じることなくやる。入場料も5000円以下で安い。いずれも伝統を重んじる家元ではできないことだ。

さて前置きはこれくらいにして能「江野島」に話を戻す。その荒筋はこうだ。相模の国江野浦に突然島が隆起し弁財天が現れた。その驚きのニュースを聞いた欽明天皇が勅使を使わした。地元の漁師が由縁を語る。近くの深沢の沼（注1）



には黒い龍がいて、人に災厄をもたらしていた。この島の守護神 弁財天がその黒龍をいさめた。「悪行をやめれば汝と夫婦になろう」黒龍は承知して島の入口の竜口明神となった。その夜勅使をもてなし弁財天が舞い、龍も五頭龍王と名乗りともに国土守護を祝った。

ご覧になった方も多いと思うが 1月2日 NHK のブラタモリが笑福亭鶴瓶の「家族に乾杯」と合同で江の島を詳しく紹介した。

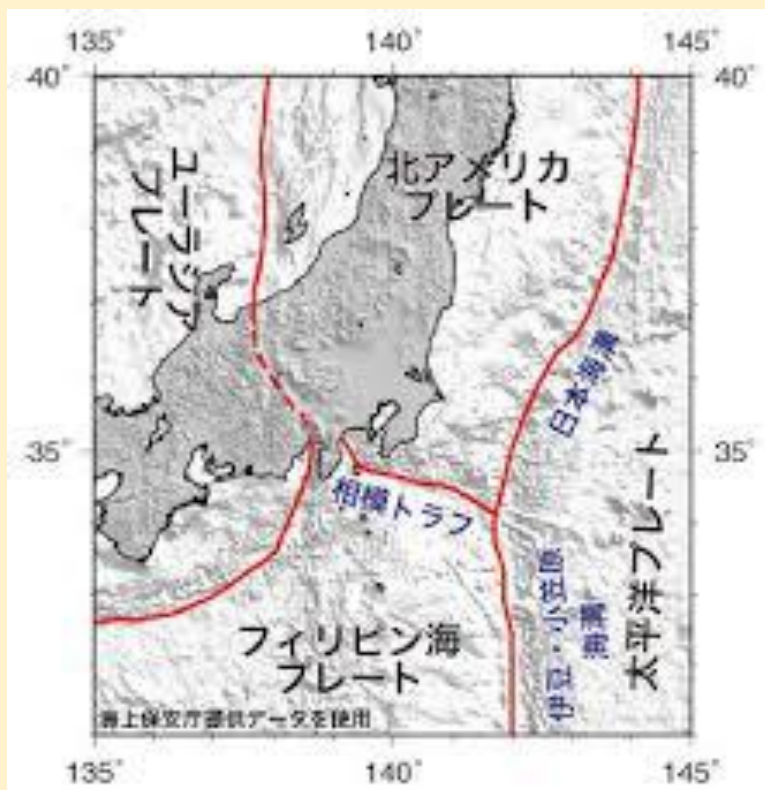
地質的には、江の島は隆起しては波に削られて平坦になり、また隆起することを繰り返して、先端が断崖と峡谷、上が平坦という今の形ができた。亀のような形になって縁起の良い島になった。

島の先端の洞窟に降り立たとされた弁財天は。鎌倉時代は八臂弁財天として武運の神として戦国武将の信仰を集め、江戸時代には 妙音弁財天となり、芸事の神となって、役者や芸者たちの信仰を集めた。ブラタモリではそのようなことを紹介していた。笑福亭鶴瓶は江の島に古くからの住人や最近の移住者らと出会って江の島での生活ぶりを紹介していた。



江の島は能でもブラタモリでも言っている通り海中より生まれた。がその経過は複雑である。

私が毎朝見る相模湾は、西に伊豆半島。東に三浦半島と江の島があり、真ん中に小さな烏帽



子岩が立っている。それだけの穏やかな風景である。しかし実は、その中央に見えない黒い竜でも住んでいそうな「相模湾トラフ」がひそんでいる。ここは巨大な4つのプレートが角付き合っている世界でもまれな場所なのだ。

まず西の伊豆半島・箱根・丹沢は

フィリピンプレートに乗って太平洋をはるばる100万年かけて渡ってきて、ついに日本列島に衝突してできたものである。一方東に見える三浦半島は太平洋プレートがアメリカプレートに沈み込むときに、上に積もっていて堆積物が剥がれて海面下に残り、50万年前に隆起して出来たものとされている。まったく生まれ方が違うのである。

更に江の島はというところの三浦半島のはずれの部分が、2万年前に海進浸食で島となり、ブラタモリの説明につながっていくようだ。その後も後で見るように地震などで変化していた。

湾の中央にひっそりと立っている茅ヶ崎の象徴「烏帽子岩」は、この3つの役者三浦半島江の島 伊豆半島よりも先輩で500万年前の地層に属し、これらの天変地変のドラマを見守ってきたのだ。

これまでは、人間がまだいない時代のことで、ここからはこの不思議な形の島と日本人との関わりを追いかけてみよう。こんなちっぽけな島だけれど、神と竜神の島だけあってよくぞ歴史とかかわっていることに驚く。

縄文時代中期 縄文人住居跡が見つまっている。

552年 欽明天皇13年は能「江野島」の事件 島が生まれたとの伝説の年

814年 空海が岩屋参拝し国土守護・万民救済を祈願、社殿（岩屋本宮）を創建

1182年 源頼朝の祈願弁才天奉納 1190年北条時政、江の島に参籠

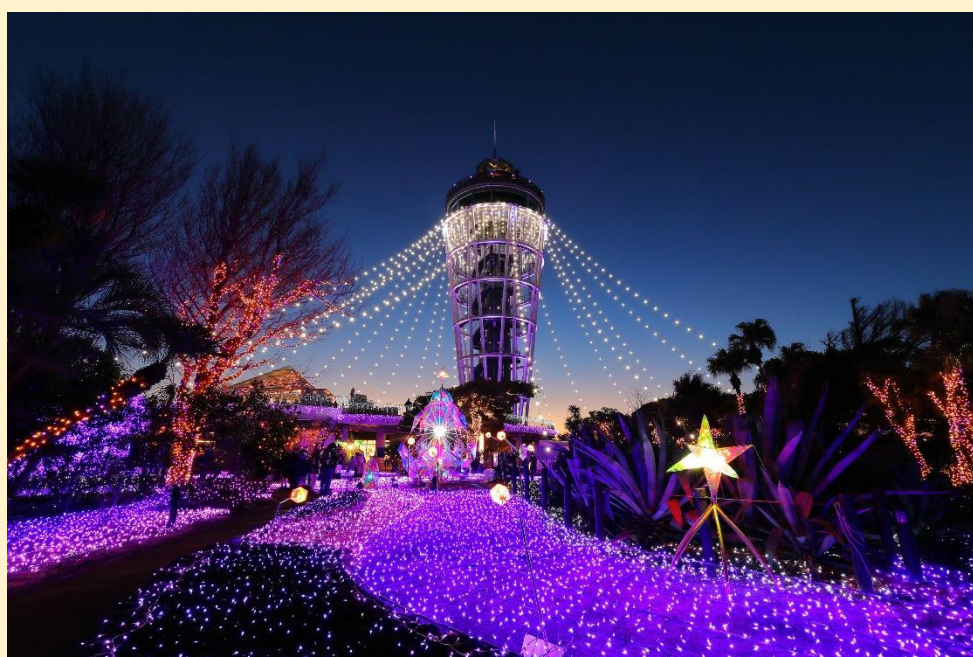
1282年 踊り念仏の一遍上人鎌倉入りを拒まれ、江の島へ渡島、片瀬で踊り始め（注2）

- 1450年 鎌倉公方足利政権転覆の計画 鎌倉を脱出した反乱軍と江ノ島合戦。
- 1455年 足利氏 江の島岩本坊との関係樹立。(注3)
- 1600年 徳川家康が参拝
- 1689年 三神社完成(岩本院・上之坊・下之坊) 弁財天総開帳。
- 1703年 元禄地震。東端の小島、聖天島が隆起により半島状になる。
- 1747年 江島神社の青銅の大鳥居創建 江戸の吉原勢が寄進
- 1862年 歌舞伎「青砥稿花紅彩画(弁天娘女男白浪「弁天小僧」)」中村座で初演。
- 1873年 神仏分離令により、金亀山与願寺は廃止 弁財天信仰の江島神社となった
- 1877年 エドワードS・モースが、江の島に臨海実験所、海洋生物学発祥の地となる。
- 1880年 アイルランド貿易商のサムエル・コッキング江の島頂上部の土地500坪余(現在の亀ヶ岡公園)を妻名義で購入し、別荘を建築。(注4)
- 1923年 関東地震により島全体が2メートル近く隆起 海食台が海面上に現れる。栈橋は津波で流失。
- 1929年 小田急 江ノ島線が開通 江の島駅が終点
- 1951年 灯台設置 二子玉川園内の大落下傘塔を戦後に解体し、それを材料として建設
- 1959年 江の島エスカーが開通
- 2003年 江の島シーキャンドルとしてリニューアル コッキング苑遺構も発掘整備

この正月の二つの出会いで江の島がこんな深い物語のあることを知ることができたが、それまでは、近くの公園位に思っていた我々は、去年12月初めに夫婦で遊びに行ったのだ。久しぶりで幻想的な装飾できれいになったエスカーにも乗り、一番上のコッキング苑に行った。そこから藤沢の町を一望できる眺めは前には開かれていなかった。エスカーには下りが無いので、老夫婦には長い下り階段が大変で、暗くならないうちに引き上げた。



湘南の宝石シーキャンドルは日が暮れてからが本番。若者が群れを成して押し寄せる夢の世界に変貌するのだ。



(注1) 深沢は現存する地名。江の島から大船を結ぶ湘南モノレールのほぼ中間に湘南深沢駅がある。この一帯は周りに小高い山に囲まれた盆地のような土地である、今池や沼は無い、しかし泣塔といういわれもはっきりしない古石塔があったりして、黒龍伝説が生まれそうな土地だ。

(注2) NHK の歴史番組で一遍上人を取り上げていた。一遍上人は遊行の僧たちを率いて都鎌倉で旗揚げしようと思いましたが、胡散臭い一行として鎌倉入りを阻止された、そして片瀬で舞台を作って旗揚げをしたとまでは紹介していた、しかしここにあるように彼らは鎌倉入りをあきらめ江の島に入ったのだ。ここには彼ら僧たちを受け入れる施設があった。そして片瀬村は江の島の対岸である。そしてその片瀬に舞台を作りショーとしての念仏踊りを完成したのだ、なおここから 5k 真北の藤沢東海道の交差点に一向宗本山の遊行寺がある。一遍さんがここに来たとは言われてないが。

(注3) 今も立派な岩本楼旅館が存在している、洞窟風呂で有名である。最近では島入口にモダンな温泉が並ぶようになったが、昔は温泉はここだけだった。

(注4) モースの臨海実験所の跡地に石碑が立っている。

またこの時代西洋人のコッキングが日本人妻の名義であったとはいえ、江の島神社の頂点の敷地を買い占め、別荘を作ることによく反対運動が起きなかったものだと思う。それどころか彼が下へ買い物に来ると「コッキンさん」と親しげに住民が寄ってきたというから、むしろ歓迎されたのだ。明治初期の欧化運動の雰囲気

気があったのだろうか。逆に後年ここにエレベータ「エスカー」が建設されようとするとき、景観を損なうと地元住民から猛反対され、トンネルをつくりそこを通すことで、景観に影響させないとして、了解されたのと対照的な話だ。